

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表: 令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 しあわせの木 野田

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		下校時間や子供達の特徴で分けている。1対1や1対2等。	お子さんとの相性も含め短い時間ではあるが1対1で見る時間もあるので毎日の報告、ミーティングでスタッフの配置を変えてスタッフのアドバイスを受けスムーズに療育出来るよう改善している。
	2	職員の配置数は適切である	○		テーマに沿って興味、関心のわくアイデアを考え人数を配置。	配置数は足りているがグループ療育に関して、子供の動きに応じて別のスタッフへの声掛け、連携をとる。グループでの活動を重視出来るようスタッフ、子供達の動きを先に明確にする。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	足元に物は置かない。角にクッションを付けている。	全介助の利用者はいないが、段差や角に注意し、移動出来るよう介助している。周囲の子供達へも移動時には声掛けをしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		ミーティングで報告し、実行した事は結果を出し課題を見つけ速やかに改善している。	問題が起きたら即座に話し合い改善策を実行する。職員が共有し問題を見つけたら同じ方向を向いて療育していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年2回保護者アンケートを実施し、ご家族の意向を受け業務にあっている。	療育の中で意識し、目標に向かってスタッフが動けるよう、どう関わっているのか周囲の目、自分の意見を聞き、新たな課題を見つけるようにする。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○	自己評価表はスタッフ間で共有している。	今後、公開していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修内容を共有し報告を受けている。	研修内容を会社全体で把握し職員に参加を募っていく。障害特性や危機管理に対する注意点や支援内容を共有している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者と目標を共有できている。	保護者に要望を聞き、利用者の支援内容と活動内容を考慮している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		子供の状況に適したツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		役割分担をし取り組みをマンネリ化しないよう行っている。	役割分担し、創作活動、運動、調理等の取り組みをマンネリ化しないよう工夫している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		マンネリ化しないよう、季節、地域活動に参加している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		遠出の外出や集団でのマナー、ルールを身に付ける活動をしている。	平日に行けない場所に行ったり時間をかけてレクリエーションをしたり支援内容を具体化して支援している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		沢山の情報を取り入れ作成している。	日々の様子を個別に重要性を把握し考慮しながら作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		適切な支援が行えるよう日々、続けている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		改善、反省点を振り返ると共に明日により良い支援が出来るよう意見交換をしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		その日のうちに記録している。今後も継続する。	日々の中で気付いた事を個人記録に残し、共有、対応に努めている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングをして話し合いをし、必要性を判断している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表: 令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 しあわせの木 野田

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		年間行事予定表、下校時間等のプリントを頂き、こちらからも緊急時についての文章を渡し、相互で共有しています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			研修に積極的に参加していきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			地域の公園などで、交流を高めています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		今後前向きに検討していきます。
保護者への説明責任等	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳の記入や送迎時に報告を行っています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		育児向上を図るため支援を行っています。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明し、それ以降も質問等あれば速やかに対応しています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて、連絡帳や送迎時、時には面談をし支援をします。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者様の負担も考えながら、検討したいと思います。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情受付を設置し、苦情があった際は丁寧な対応を心掛けます。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月発行しています。	
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵付きの書庫に保管、施鍵を確認します。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		今後繋がりを持っていけるよう、心がけます。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 しあわせの木 野田

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月の避難訓練を欠かさずに行います。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修を受けるだけでなく、職員へ促しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者様から情報を頂き、メニューを配慮します。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		今後とも継続していきます。

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表: 令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 しあわせの木 野田

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		下校時間や子供達の特徴で分けている。1対1や1対2等。	お子さんとの相性も含め短い時間ではあるが1対1で見る時間もあるので毎日の報告、ミーティングでスタッフの配置を変えてスタッフのアドバイスを受けスムーズに療育出来るよう改善している。
	2	職員の配置数は適切である	○		テーマに沿って興味、関心のわくアイデアを考え人数を配置。	配置数は足りているがグループ療育に関して、子供の動きに応じて別のスタッフへの声掛け、連携をとる。グループでの活動を重視出来るようスタッフ、子供達の動きを先に明確にする。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	足元に物は置かない。角にクッションを付けている。	全介助の利用者はいないが、段差や角に注意し、移動出来るよう介助している。周囲の子供達へも移動時には声掛けをしていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		ミーティングで報告し、実行した事は結果を出し課題を見つけ速やかに改善している。	問題が起きたら即座に話し合い改善策を実行する。職員が共有し問題を見つけたら同じ方向を向いて療育していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年2回保護者アンケートを実施し、ご家族の意向を受け業務にあっている。	療育の中で意識し、目標に向かってスタッフが動けるよう、どう関わっているのか周囲の目、自分の意見を聞き、新たな課題を見つけるようにする。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○	自己評価表はスタッフ間で共有している。	今後、公開していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修内容を共有し報告を受けている。	研修内容を会社全体で把握し職員に参加を募っていく。障害特性や危機管理に対する注意点や支援内容を共有している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者と目標を共有できている。	保護者に要望を聞き、利用者の支援内容と活動内容を考慮している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		子供の状況に適したツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		役割分担をし取り組みをマンネリ化しないよう行っている。	役割分担し、創作活動、運動、調理等の取り組みをマンネリ化しないよう工夫している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		マンネリ化しないよう、季節、地域活動に参加している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		遠出の外出や集団でのマナー、ルールを身に付ける活動をしている。	平日に行けない場所に行ったり時間をかけてレクリエーションをしたり支援内容を具体化して支援している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		沢山の情報を取り入れ作成している。	日々様子を個別に重要性を把握し考慮しながら作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		適切な支援が行えるよう日々、続けている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		改善、反省点を振り返ると共に明日により良い支援が出来るよう意見交換をしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		その日のうちに記録している。今後も継続する。	日々の中で気付いた事を個人記録に残し、共有、対応に努めている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングをして話し合いをし、必要性を判断している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○			
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表: 令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 しあわせの木 野田

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		年間行事予定表、下校時間等のプリントを頂き、こちらからも緊急時についての文章を渡し、相互で共有しています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			研修に積極的に参加していきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			地域の公園などで、交流を高めています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		今後前向きに検討していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳の記入や送迎時に報告を行っています。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			育児向上を図るため支援を行っています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に説明し、それ以降も質問等あれば速やかに対応しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			必要に応じて、連絡帳や送迎時、時には面談をし支援をします。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者様の負担も考えながら、検討したいと思います。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情受付を設置し、苦情があった際は丁寧な対応を心掛けます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月発行しています。
	35	個人情報に十分注意している	○			鍵付きの書庫に保管、施鍵を確認します。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		今後繋がりを持っていけるよう、心がけます。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 しあわせの木 野田

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月の避難訓練を欠かさずに行います。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修を受けるだけでなく、職員へ促しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者様から情報を頂き、メニューを配慮します。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		今後とも継続していきます。